

公益社団法人日本臨床細胞学会
2020年度第4回理事会 議事録

日時：2021年3月6日（土）13：00～15：15

場所：日本臨床細胞学会事務局 地下2階会議室
WEB同時開催

役員総数：42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数：理事 30名

（理事）石井 保吉，板持 広明，伊藤 仁，伊藤 潔，井上 健，大平 達夫，
小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加藤 久盛，川本 雅司，小松 京子，
齋藤 豪，佐藤 之俊，生水 真紀夫，進 伸幸，田畑 務，都築 豊徳，中村 直哉，
羽場 礼次，廣岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，松浦 祐介，三上 芳喜，
森井 英一，森谷 卓也，矢納 研二，横山 正俊，若狭 朋子

（監事）長村 義之，佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）和田 直樹，星 利良

（国際交流委員会幹事）西野 幸治

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

（中田会計事務所）中田 ちず子

本議事録において定款第23条第3項で定める理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す

本理事会の開催にあたり、*佐藤之俊 理事長、*川本雅司 副理事長 [事務局運営・編集・渉外]、*齋藤豪 副理事長 [総括・財務・専門医制度・専門医・臨床研究]、*中村直哉 副理事長 [認定試験・検査士・教育]、*森谷卓也 副理事長 [学術・国際交流・IAC] の挨拶および報告が行われた。

理事長報告では、以下のことが報告された。

- 学術活動は、2020年11月の第59回秋期大会はハイブリッド開催された。
- 本学会の事業は、
 - ・細胞検査士試験一次・二次、細胞診専医試験は感染対策を十分に行った上で実施した。
 - ・各種セミナー、ワークショップでは教育委員会を中心に対応した。教育セミナーにおけるe-ラーニングは、今回の支払い、今後問題が生じた場合の対応に関する念書を委託会社と交わした。
 - ・タイ、韓国、JHUなど国際交流事業は本年度は見送った。

- ・改訂作業を進めていた細胞診専門医教育研修要綱をホームページに掲載した。また、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針初版のパブコメ募集をアップした。
- ・2つのWGを立ち上げた。(細胞診ガイドライン改訂、新しいがん検診スタイルに適應した細胞診専門医あり方検討)
- ・全国区に続き、理事候補地方区選挙、理事長選挙が行われた。
- ▶ 事務局運営について、
 - ・会員管理に際し、新マイページをスタートした。今後各種資格確認、会費納入、学術集会費納入に役立て、電子会員証の整備を進める。
 - ・細胞診専門医のサブスペシャルティ領域専門医関連では、病理学会内にサブスペ領域連絡協議会が立ち上がり、本学会が参加した。日産婦学会内の同協議会には本学会はオブザーバーとして参加することとした。なお、サブスペ専門医への申請は見送りとした。

副理事長報告では、テレワークの導入で事務局運営が効率的になっている部分があること(川本副理事長)、オンライン会議の導入で会議費がある程度抑制できていること、感染対策を綿密に行うことによる予定外の支出と講習会の受講を制限していることによる収入の減少が財務を圧迫していること(齋藤副理事長、中村副理事長)、学術は適切に業務が遂行されていること、国際交流とIACについてはコロナ感染症の影響で滞っているが、今後の状況を鑑みて、可能な取り組みを進めていきたいということ(森谷副理事長)などが報告された。

Web会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されて、議案の審議に入った。

前回(2020年度第3回理事会)議事録について

2020年度第3回理事会議事録の確認が行われた。

総務庶務報告(2021年2月9日現在)

全会員数：12,816名

(正会員 5,700名、準会員 6,890名、名誉会員 38名、功労会員 172名、図書会員 16件)

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,155名(実数)

(認定：細胞診専門医 3,730名、細胞診専門歯科医 102名)

FIAC：112名 MIAC：36名

細胞検査士数：7,795名(実数)(認定10,384名)

CT(IAC)：4,229名

物故会員（2020年11月3日～2021年2月9日）

功労会員

品川 信良 先生

室久 敏三郎 先生

準会員

渡部 庸一 先生（静岡県立静岡がんセンター 病理診断科）

大木 昌二 先生（千葉大学医学部附属病院 病理部）

折田 利秀 先生（（公財）鹿児島県民総合保健センター 細胞検査課） 黙禱

学会年会費滞納者一覧

学会年会費滞納者一覧（特に3年滞納者〔細胞診専門医・細胞検査士〕）の報告後、対象者に年会費滞納者である旨の声掛けを行って、滞納を解消することが奨励された。

大会準備状況

・第62回春期大会準備状況（生水真紀夫、幕張メッセ・国際展示場8ホール、〔現地開催〕
2021年6月4日（金）～6日（日）〔Web開催〕 2021年6月18日（金）～7月11日（日））

・第60回秋期大会準備状況（廣岡保明、米子コンベンションセンター BIG SHIP・米子市文化ホール、2021年11月20日（土）～21日（日））

・第63回春期大会準備状況（岡本愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022年6月10日（金）～12日（日））

・第61回秋期大会準備状況（伊藤潔、仙台サンプラザホテル・ホールメルパルク仙台・ホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日（土）～6日（日））

・第64回春期大会準備状況（藤井多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日（金）～11日（日））

・第62回秋期大会準備状況（横山正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレスあるいは、マリ
ンメッセ福岡、2023年11月4日（土）～11月5日（日））

の準備状況に関する報告が行われた。

総務委員会（委員長 森井 英一）

〔事業計画〕

1. 学会内、他学会、他団体との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。

〔報告事項〕

1. 他団体からの周知依頼に対応した
2. 緊急事態宣言中にテレワークを行うことで、残業の減少、自主的な作業習慣の定着が可能となった。

3. 緊急連絡方法の改善により、事案の発生後 30 分程度での対応が可能となった。

〔審議事項〕

1. 2023 年春の総会の開催場所・開催期間を「国立京都国際会館、2023 年 6 月 2 日（金）～4 日（日）」から「名古屋国際会議場、2023 年 6 月 9 日（金）～11 日（日）」へ変更することについて：承認
2. 正会員の所属先登録情報を参考に研究者が構成員の半数以上であることを確認した指定要件確認書と申込書で日本学術会議協力学術研究団体へ申し込むことについて：承認

情報処理委員会（委員長 伊藤 仁）

〔事業計画〕

学会ホームページの改善。

〔報告事項〕

1. イエローページ掲載、情報開示の要請、その他のホームページへの掲載願いの対応を行った。
2. 新マイページ進捗について
昨年末より新しくなったマイページは、現在までに大きな苦情は特になく、年会費支払い状況・学会参加状況・セミナー等参加状況については、なるべく早く掲載できるよう検討・準備中である。

〔審議事項〕

特になし。

学術委員会（委員長 前田 一郎）

〔事業計画〕

1. 2021 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集及び選考を行う。
2. 班研究に対するグラントナンバーを作成する。

〔報告事項〕

1. 2020 年 最優秀論文賞の募集中
締め切り：2 月 17 日（水）
現在 4 件エントリーされている。
日文：1 件 英文：3 件
2. 2021 年度学会賞・技師賞・班研究課題の公募をイエローページへ掲載
公募詳細案内：4 月中旬

締め切り：7月1日（木）

〔審議事項〕

1. 日本学術会議協力学術研究団体申込について（総務委員会より）：承認
2. 2021年度日本臨床細胞学会班研究課題の公募に『※班研究終了後1年以内に「日本臨床細胞学会誌」あるいは「Acta Cytologica」誌等に投稿することが望ましい。』と努力目標を織り込むことについて：承認

計理委員会（委員長 岡本 愛光）

〔事業計画〕

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と2回の監査会を行い会員に報告をする。
3. 報酬等の支給及び支出基準の更新および経理基準を作成していく。

〔報告事項〕

1. 2021年度の予算案を作成し、2月27日の臨時監査会で承認を得た。コロナ対策を加味した予算で、学会としての当期経常増減額は16,352,658円の赤字予算であり赤字解消が望まれるが、学会委員会・春期大会・秋期大会・試験・セミナー・施設認定・研究活動・専門医会・検査士会の当期経常増減額も合計した2021年度予算は7,179,565円の赤字となる。過去の積み立て金を取り崩す予定があり、その金額が約700万円なので健全会計と考えられる。
2. 2021年4月上旬に監査会を行う予定である。

〔審議事項〕

特になし→その他の審議事項1. 参照

編集委員会（委員長 矢納 研二）

〔事業計画〕

1. 年間6回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間6本を予定。
2. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定。
3. 投稿規定の見直しを継続し、投稿された論文の受け入れ態勢のさらなる改善を図る。さらに、学会内外からの投稿論文数の拡充を図る。

〔報告事項〕

2020年度中に、日本臨床細胞学会誌投稿規定を、電子ジャーナルに即した内容に変更した。

〔審議事項〕

1. 理事会で承認を受けた論文投稿規定改定について、インテルナ出版社から指摘を受けた4項目を修正したことについて：承認

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣 代理 森井 英一・山下 博）

〔事業計画〕

1. 令和2年度教育研修指導医新規申請および資格更新
2. 令和3年度細胞診専門医資格更新
3. 令和3年度細胞診専門医資格認定試験

〔報告事項〕

1. 令和2年度細胞診専門医資格認定試験

令和3年2月6日（土）にAP浜松町で実施した。今年度の試験については、筆記試験および細胞診断試験（プリント問題）は従来通り、検鏡試験はバーチャルスライドで行った。総合科95名、歯科3名が受験予定であったが、コロナ禍の収束がみられず緊急事態宣言が発出された情況に鑑み、自己の判断で受験辞退した場合も受験料を変換することとし、最終的には総合科74名、歯科2名が受験した。合格率は総合科72.9%、歯科100%であった。バーチャルスライドを用いた試験は初めての試みであったが、運営自体は問題なく実施できた。しかしながら受験生からのアンケートをみると、改善すべき点もいくつか挙がったため、今後の課題としたい。

2. 2021年度細胞診専門医資格認定試験

12月18日（土）AP浜松町にて実施予定。会場は既に仮予約済み。コロナ禍の状況を鑑みると、検鏡試験については、次回もバーチャルスライドで行わざるをえないと思われる。これに関して、次年度の細胞診専門医試験の方向性として、次年度も検鏡試験についてはバーチャルスライドで行わざるをえないのではないかと佐藤理事長のご発言もあった。

3. 令和2年度細胞診専門医資格更新

今年度の対象者ナンバーは、0684-0773、1102-1170、1387-1446、1647-1710、2029-2159、2477-2577、2850-2961、3223-3325、8041-8045である。今年度は5年毎更新の新単位制度による初めての資格更新となる。1月12日（火）に申請を締め切り、現在資格更新作業中である。

4. eラーニングについて

eラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在までに共通講習26コンテンツ（含 指導医講習4コンテンツ）、領域講習37コンテンツ、検査士講習8コンテンツをアップした。

5. サブスペシャルティ領域専門医について

日本専門医機構がサブスペ専門医の認定作業を開始した。サブスペ専門医の基本領域は1

分野にせよとの指示がある。日本臨床細胞学会における細胞診専門医の構成は病理科 60%、産婦人科 30%、その他 10%であり、病理学会が基本領域となる。病理学会および日産婦学会内のサブスペ領域連絡協議会と審議した結果、細胞診専門医のサブスペ専門医への申請については、制度設計上、機構認定医へのハードルが高いことや、デメリットも多いことから現状では見合わせる方向となった。

〔審議事項〕

特になし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）

〔事業計画〕

1. 新規施設認定審査（施設認定、教育研修施設認定）（2020 年度は終了、2021 年度は 2021 年 3 月 31 日 申請締切）
2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設）（2020 年度は終了、2021 年度は 2021 年 3 月 31 日 申請締切）
3. 2020 年度・年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設）（2021 年 3 月 31 日 提出締切）
4. 2021 年度・内部精度管理（実地調査 4 カ所）：内部精度管理 WG（浦野誠 WG 長）のもとで 2021 年 7～9 月頃実施予定（コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定）
5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理 WG のもとで、2022 年度に実施予定（2 年毎に実施：前は 2020 年度実施）
6. 2021 年度 年報会議、内部精度管理 WG、外部精度管理 WG を行う

〔報告事項〕

1. 2020 年度新規施設認定結果：11 施設が認定可、6 施設が条件付き認定可（2021 年 3 月までに条件が改善されたかどうかの調査予定）
 2. 2020 年度新規教育施設認定結果：3 施設認定可
 3. 2020 年度認定施設更新結果：65 施設中 62 施設更新完了、3 施設辞退
 4. 2020 年度教育研修施設更新結果：更新施設無し
 5. 2020 年度 内部精度管理はコロナ禍のため書類審査を 4 施設に行っている（2021.1 現在）
- 2019 年度内部実地調査で違反があった国立国際医療センター病院に 2020 年度中（2021 年 3 月まで）に是正されたかどうかの調査予定
6. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で再度の審議中
- (1) 施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
 - (2) 施設認定に関する申請料について

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会（委員長 加藤 久盛）

〔事業計画〕

1. 2021年度(第54回)細胞検査士資格認定試験

一次試験は2021年10月30日(土)に実施する予定。

二次試験は2021年12月4日(土)・5日(日)に実施する予定。

〔報告事項〕

1.2020年度（第54回）細胞検査士資格認定試験結果

2020年10月31日(土)CIVI研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施

521名受験者のうち4名欠席にて517名が最終受験者数

合格者318名（合格率61.5%）

2020年12月5日（土）虎ノ門ヒルズ フォーラムにて実施

318名と一次試験免除117名合わせ435名受験者のうち6名欠席にて435名が最終受験者数

合格者253名（合格率58%）一次免除者199名（うちコロナ感染配慮にて次年度持越し59名）

2020年12月11日HPにて結果発表、2021年1月15日封書にて発送済

〔審議事項〕

1. 2021年6月26日（土）に実施予定のIAC資格認定試験を2022年春に延期することについて：承認；IAC試験FIAC, CTIACは、新型コロナウイルスのパンデミックの事情により、2021年には行わず、2022年Spring（前半）に行うこととなり、IACへ通知した。具体的な時期については、今後検討して行く。

2. 四日市看護医療大学臨床検査学科細胞検査士養成課程設置の申請→委員会内の検討の結果、申請許可の方向となり理事会での検討をお願いしたい→承認

3. 福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科細胞検査士養成コースの申請→委員会内の検討の結果、申請許可の方向となり理事会での検討をお願いしたい→承認

4. 細胞検査士資格認定試験を虎ノ門ヒルズで次回（2,200,340円赤字になる見込み）も実施することについて：条件付き承認；虎ノ門ヒルズは会場自体が感染対策の比較的しっかりした会場なので、感染対策専門業者費は節約できる可能性があることを検討するのが条件

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 羽場 礼次）

〔事業計画〕

1. 2021 年度細胞検査士資格更新作業

138-194、364-439、760-912、1147-1353、2068-2258、2913-3119、3932-4209、4942-5134、5813-6050、6574-6748、7450-7685、8318-8612、9365-9558

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）

〔事業計画〕

1. 細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ・細胞検査士養成講習会を企画・実施する。
2. 細胞診断学セミナー実施委員会を設置して、細胞診断学セミナーの改善・管理を行う。
3. 日本肺癌学会肺がん検診委員会と共同で「喀痰細胞診標準細胞表本の管理・貸し出し業務を行う。

〔報告事項〕

細胞検査士養成講習会を Web 開催とするか、あるいは鏡検なしの講義のみでは参加者の期待に応えられないことから中止とするか、検討中である。

〔審議事項〕

a. 細胞検査士教育セミナー

完全 Web で 2021 年度には一回のみ開催したい。→承認

b. 細胞検査士ワークショップ

コロナ禍において、先行き不透明な状況で大きな会場の確保やその費用などの面で顕微鏡実習を伴った大規模なワークショップの実施は困難なため、講義のみの Web 開催としたい。

c. 細胞検査士養成講習会を Web 開催あるいは鏡検なしの講義のみとした場合、参加者の期待に応えられないことから中止としたい。→承認

d. 細胞診断学セミナー

2020 年度は、Web 開催とした。2021 年度については会場の東京医学技術専門学校を借りることができない。鏡検ありで開催するとなると会場の確保・費用など対応が必要。オリンピックとの兼ね合いも考慮する必要がある。2021 年度も Web 開催としたい。→承認

渉外・広報委員会（委員長 小田 瑞恵）

〔事業計画〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔報告事項〕

1. 他学会等からの共催・協賛・後援に関する申請等について
 - ① 厚労科研費補助金 がん対策推進創業事業 「わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」研究代表者 青木大輔先生からの「子宮頸がん検診の運用を考えるフォーラム」への後援依頼があり承諾した。
 - ② 上記①の開催案内を HP のお知らせに掲載し、会員にメール配信した。
2. 他学会等との会議出席等について
 - ① 一般財団法人 医療関連サービス振興会 サービスマーク認定に係る審査調査指導中央委員会（令和2年度第3回）に出席した。
 - ② 一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会に出席した（（令和元年度第3回：岡 俊郎委員））。
 - ③ 一般財団法人 医療関連サービス振興会 「医療法改正に伴うチェックリスト改定ワーキンググループ」に出席した（第9回 第10回）。細胞検査に関するチェックリストについて、本会の「認定施設に対する細胞診精度管理ガイドライン」と齟齬のない内容となるよう改定する予定である。
3. 昨年6月に細胞検査士会と細胞検査士委員会が日本臨床細胞学会会員に実施した「新型コロナウイルスによる業務への影響についての緊急実態調査」のアンケート結果を踏まえて、「新しい生活様式の中でのがん検診についての提言」を行った。今年も同様のアンケート調査を行う予定であるので、その結果を広報する。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）

〔事業計画〕

1. 2022年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。

〔報告事項〕

(1) 令和2年10月15日に内保連の総会が開催され、今回は2020年度改定における不合理・矛盾点が提示され、①迅速細胞診の適応拡大にかかる文言の齟齬②婦人科細胞診において診断料、診断管理加算が算定されていないことの2点が採用された。

この不合理点、矛盾点は令和2年の厚労省と内保連とのヒアリングで提出された。

(2) 令和2年12月10日に内保連へ第一次提案書を提出した。

今回、上記2点が内保連よりヒアリングにおいて既に提出されていることを考慮して、第一次提案書としては次の順位で提案した（*が不合理点、矛盾点として提出された項目）

未収載項目として

1. 細胞診精度管理料（*）
2. 婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算
3. 感染対策加算
4. 国際標準病理診断管理加算

既収載項目として

1. 細胞診診断の見直し、婦人科細胞診への適用拡大（*）
2. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大（*）
3. 免疫染色、細胞診標本への適用拡大
4. 液状化検体細胞診加算の見直し
5. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大

診療報酬改訂の今後のスケジュールについて

内保連への提案書最終提出締切：2021年4月22日

内保連によるヒアリングの実施：2021年4月

内保連各委員会での最終調整締切：2021年5月31日

提案書を厚労省に提出：2021年6月

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）

〔事業計画〕

1. 2019年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。（締切：2021年2月末日）

2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

〔報告事項〕

1. 2019年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
報告書提出の案内を2021年1月より開始。

2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：

1) 2020年度の活動支援の申請件数 44件（47件中）

実施内容報告書を提出した地域学会に支援を行う。

助成金の交付は上限5万円を上限とした。

2021年3月2日 調査集計 内訳

開催未定：1件（問い合わせ中）

開催中止：14件（未申請3件含む）

開催実施済：32件

開催完了（送金済み）：26件

2) 2021年度の地域連携組織に対する活動支援は、支援費用については5万円を上限とし、希望地域は2021年3月末日までに企画書を提出するように依頼する。

〔審議事項〕

特になし

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之 代理 西野 幸治）

〔事業計画〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援

第62回日本臨床細胞学会総会春期大会；2021年6月4日（金）～6日（日）；幕張

第60回日本臨床細胞学会総秋期大会；2021年11月20日（土）～21日（日）；米子

※COVID-19の影響により、第62回春期大会は海外演者の招聘なし（hybrid or web）

2. 日・韓、日・タイ、日・中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート

第19回日韓細胞診合同会議；2021年9月4日（土） 韓国（予定）

第28回日・タイ細胞診ワークショップ；2022年1月（未定）

3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ2021の企画、運営

2021年秋頃（未定）

4. IAC,ECC のサポート

Companion Meeting Japan in ECC 2020；2021年10月3日（日）～6日（水）ポーランド・ヴロツワフ

5. オーストラリアとの交流

6. カンボジアとの交流サポート

2名分のトラベルグラントを計上、2021年秋期大会での招請が可能なように準備

7. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子 代理 川本 雅司）

〔事業計画〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施。

〔報告事項〕

1. 下記承認案件（2020年11月21日）を定款・施行細則に反映させた。
（ア）役員等選任に関する施行細則(定款・施行細則 p.16)
（イ）委員会に関する施行細則(定款・施行細則 p.30)
（ウ）細胞診専門医資格更新実務に関する施行細則(定款・施行細則 p.45)
2. 細胞検査士資格認定試験施行細則変更について2月24日-26日および3月2日-5日に委員会内メール審議を行い特に問題点の指摘はなかった。

〔審議事項〕

1. 細胞検査士資格認定試験施行細則改定案について（四日市看護医療大学臨床検査学科細胞検査士養成課程と福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科細胞検査士養成コースの追記）：承認

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨 代理 森井 英一）

〔事業計画〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）
2. 医療安全セミナー開催予定（第62回日本臨床細胞学会春期大会）

演題名：未定

演者：群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学教授・群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 部長 小松康宏先生

日時：未定

〔報告事項〕

1. MSC ホットラインの活動報告

今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。

2. 医療事故調査機構の情報について

日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 竹島 信宏 代理 佐藤 之俊）

〔事業計画〕

年2回の医療倫理セミナーを春期大会、秋期大会で開催する。

〔報告事項〕

1. 2020年11月22日に第59回に日本臨床細胞学会秋期大会において、以下の医療倫理セミナーを行った。

『細胞診断学における医療倫理』 鬼島 宏先生

2. 学会発表の倫理規定について継続審議中である。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 板持 広明）

〔事業計画〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わるCOI状態の判断ならびに助言、指導。

2. 会員個人のCOI申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関する事。

3. 2020年利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔報告事項〕

特になし

〔審議事項〕

特になし

臨床試験審査委員会（委員長 田畑 務）

〔事業計画〕

1. 臨床試験審査委員会を1回、春期大会で行います。Covid-19 感染の影響で委員会が開催されない場合は、メール会議などで代用する場合があります。
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行います。

〔報告事項〕

現在、「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ) (臨床試験主任研究者、青木大輔先生) が進行中です。

〔審議事項〕

特にありません。

IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔 代理 森井 英一）

〔事業計画〕

1. IAC からの諸情報等について検討し対応する

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 14 日から 19 日まで米国ワシントン DC にて開催される。The 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催

〔審議事項〕

2021 年 6 月 26 日（土）に実施予定の IAC 資格認定試験を 2022 年春に延期することについて：承認；IAC 試験 FIAC, CTIAC は、新型コロナのパンデミックの事情により、2021 年には行わず、2022 年 Spring（前半）に行うこととなり、IAC へ通知した。具体的な時期については、今後検討して行く。

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）

〔事業計画〕

- ・『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査と

の併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市) の継続

〔報告事項〕

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』の進捗状況

- ・ 最終登録症例数は 18,471 例であり、2015 年 4 月以後は登録症例について検診/精密検査実施医療機関と協力して 7 年間の追跡調査を実施している。
- ・ 本研究の初回検診の結果までに関するベースライン論文を、Cancer Epidemiology 誌に報告した(Cancer Epidemiol. 2017;50:60-67)。
- ・ 本研究は特定臨床研究に該当するため、認定臨床研究審査委員会 (慶應義塾臨床研究審査委員会) への申請を行い 2019 年 2 月 8 日に認可を受けた。認可後に関東信越厚生局へ実施計画を提出し、jRCT への登録 (臨床研究実施計画番号 : jRCTs031180313 公表日 : 2019 年 3 月 15 日) を完了した。
- ・ 中央モニタリング報告書、監査報告書を添付した上で、特定臨床研究としての定期報告を行い、2020 年 11 月 10 日に jRCT (Japan Registry of Clinical Trials) 上に公開された。
- ・ 初年度登録以降のある一定期間の経過が不明な被験者に対して、個別の追跡調査表の郵送及びその回答を回収・集計する「個別追跡調査」の施行に際して、研究計画書の修正を含めて臨床研究審査委員会に 2020 年 1 月に修正申請を行い、2020 年 6 月 25 日に承認された。その上で 2020 年 11 月よりこの個別追跡調査を開始している。

〔審議事項〕

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』の研究期間の延長について

- ・ 本研究は、当初 2013~2014 年度に研究参加者の募集・参加登録を行い、以後 6 年間追跡調査、研究データの収集を行う予定であり、2013 年 4 月 22 日~2021 年 3 月 31 日の研究期間としていた。今回、2020 年度の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、研究に関係する人的、物的な交流が滞ったこともあり、研究データの収集、データ解析の作業の遅延を余儀なくされている。そこで、最終年度の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表を完遂するために、研究期間を、2023 年 3 月 31 日までと 2 年間延長させていただきたい。
- ・ 以上について、延長期間でデータ管理などに必要な経費は細胞学会から補填する方針を確認し、論文公表時には細胞学会の支援に関して明記することを条件に研究期間の延長が承認された。

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）

〔事業計画〕

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。
2. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

〔報告事項〕

1. 会議をオンラインで複数回行い、指針の初版をまとめた。理事に回覧した後、HP にてパブリックコメントを得る。

〔審議事項〕

特になし。

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

〔事業計画〕

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当した。

〔報告事項〕

1. 液状化検体細胞診における検討を進める。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

〔事業計画〕

1. IAC-WHO が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力する。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見の WEB 公開を目指す。

〔報告事項〕

1. 本 WG において新たな 4 段階の判定基準を提案し、それが Acta Cytologica に掲載された。
2. 上記論文内容の一部をもとに国際的な呼吸器細胞診基準が IAC-WHO から出版される

ことになった。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）

〔資料なし〕

〔事業計画〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析する。
2. 成果を日本臨床細胞学会・日本乳癌学会・日本病理学会などで発表。
3. 結果を論文発表。

〔報告事項〕

1. 現在、各施設におけるデータの収集を行っており、揃い次第集計・解析を進める。

〔審議事項〕

1. 特になし。

細胞診専門医教育研修指導要綱改定ワーキンググループ（委員長 安田 政実 代理 山下 博）

〔事業計画〕

昨年（2020年）秋の理事会でのとくに異論はなく基本的に承認を得たことで、本要綱の適応を来年度の受験者からとする。これにより、ワーキンググループは任を終えたことになる。

〔報告事項〕

とくに修正事項はないが、「参考資料」への追加要望が理事の一人から提案されたことで（上記理事会直後に）ワーキングの方々にも働きかけて検討してきた。学会ホームページ上で改訂版として2021年2月17日に公開された。

〔審議事項〕

現時点で検討事項はとくに存在しないが、ホームページ上での公開後にパブリックコメントなどが寄せられる可能性があり、場合によっては検討を行うこともあり得る。

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）

〔事業計画〕

1. ワーキンググループのメンバー、および臓器・領域別の委員を選定する。
2. スケジュールを策定し、それに従って改定を進める。
3. 改定した内容を学術集会で発表、および学会ホームページ等で公表する。

〔報告事項〕

現在、若い世代を中心にメンバーの選定を進めている。

〔審議事項〕

特になし

新しいがん検診スタイルに適應した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ
（委員長 齋藤 豪）

〔事業計画〕

1. 第2回 WG を開催予定

〔報告事項〕

1. 2月20日 11時より第1回 WG を開催

委員長 副理事長 齋藤 豪

委員

理事長 佐藤 之俊

専門医会 植田 政嗣

検査士会 伊藤 仁

広報関係 小田 瑞恵

総務関係 森井 英一

学術関係 前田 一郎

婦人科細胞診領域 三上 芳喜

婦人科がん検診学会 森定 徹

人間ドック関係 佐々木 寛

議題

1. 細胞診専門医における婦人科医数の推移などについての資料提出
2. わが国の子宮頸がん検診における HPV 検査導入の問題点について森定委員より解説
3. 今後の細胞診専門医のあり方についてフリーディスカッション

〔審議事項〕

なし

その他の報告事項

1. みなし理事会報告と 2021・2022 年度理事長選挙スケジュール報告
2. 理事長候補選挙は、立候補の締め切りを 3 月 1 日として行ったところ、佐藤之俊先生 1 名の立候補があった。立候補者が 1 名だった為、そのまま選出とし、結果は封書にて理事長候補者に報告した。
3. デジタル化時代への学会対応について総務委員会・渉外広報委員会で方向性の検討を始める。

その他の審議事項

1. 2021 年度予算案（計理委員会から報告された予算案について）：承認
2. 2021 年度事業計画案：以下を承認

2021 年度公益社団法人日本臨床細胞学会事業計画（案）

1. 臨床細胞学に関する学術研究の推進並びに学術集会の開催

① 学術集会等を通じた研究・教育の普及および広報

1) 第 62 回（2021 年）春期大会 生水真紀夫大会長

会期：〔現地開催〕 2021 年 6 月 4 日(金)～6 日(日)

〔Web 開催〕 2021 年 6 月 18 日(金)～7 月 11 日(日)

会場：幕張メッセ・国際展示場 8 ホール

2) 第 60 回（2021 年）秋期大会 廣岡保明大会長

会期：2021 年 11 月 20 日（土）～21 日（日）

会場：米子コンベンションセンター BIG SHIP・米子市文化ホール

② 研究活動への助成による学術研究

班研究課題・特別学術研究費の選考を公募によって実施する。

③ 学会研究活動

「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」について継続して研究を行う。

④ 学会賞・技師賞・最優秀論文賞の授与およびその論文発表

学会賞・技師賞および最優秀論文賞（和文・英文）選考を公募によって実施する。

2. 臨床細胞学に関する教育普及事業

① 講習会およびセミナーの開催

| 講習会 | 開催日 | 開催地・実施委員長 |
|--------------------|-----|--------------------------|
| 第 46 回細胞診断学セミナー | 未定 | Web 開催 教育委員会委員長 |
| 第 81 回細胞検査士教育セミナー | 未定 | Web 開催 東京医科大学病院 三宅 真司 |
| 第 82 回細胞検査士ワークショップ | 未定 | Web 開催 兵庫医科大学病院 鳥居 良貴 |
| 第 83 回細胞検査士ワークショップ | 未定 | Web 開催 国際医療福祉大学 片山 博徳 |

3. 臨床細胞学に関する渉外・広報事業

- ① 診療報酬改定に係る活動。
- ② 子宮の日：都道府県にて子宮頸がん検診推進活動を行う。
- ③ ホームページを通じての広報活動。
- ④ 関連他団体との連携。

4. 臨床細胞学に関する細胞診専門医並びに細胞検査士の資格認定、更新に関する事業

① 細胞診専門医、細胞検査士の資格認定および資格更新

1) 2021 年度細胞診専門医資格認定試験施行予定。

2) 2021 年度細胞診専門医資格更新は、

774-899、1171-1241、1447-1509、1711-1797、2160-2274、2578-2672、2962-3051、
8001-8017、3326-3404、8046-8055

3) 2021 年度（第 54 回）細胞検査士資格認定試験

一次試験は 2021 年 10 月 30 日（土）に CIVI 研修センター新大阪東・新丸ビル別館で実施予定。

二次試験は 2021 年 12 月 4 日（土）、5 日（日）に実施予定。

※一次試験、二次試験共に会場・実施日は 3 月 6 日の細胞検査士試験運営委員会にて決定される。

② 2021 年度細胞検査士資格更新

2021 年度細胞検査士資格更新対象者は、

138-194、364-439、760-912、1147-1353、2068-2258、2913-3119、3932-4209、
4942-5134、5813-6050、6574-6748、7450-7685、8318-8612、9365-9558

③ 教育研修指導医の資格認定および資格更新

1) 2021 年度教育研修指導医の認定

2021年2月～3月に新規募集し、審査会を経て認定証を発行する。

2) 2021年度教育研修指導医の更新は、

0551-0572

5. 細胞診断の質を維持、向上させるための施設認定、研修に関する事業

① 細胞診を用いた検診等を実施する団体等への施設認定および細胞診専門医を育成するための教育研修施設認定

1) 2021年度新規施設認定：学会ホームページに2021年2月末～3月上旬に掲載。

申請書締切2021年3月31日。審査終了2021年5月頃。理事会報告、当該施設への認定報告、学会雑誌イエローページに掲載。

2) 2021年度教育研修施設認定：学会ホームページに2021年2月末～3月上旬に掲載。

申請書締切2021年3月31日。審査終了2021年5月頃。理事会報告、当該施設への認定報告、学会雑誌イエローページに掲載。

3) 2021年度認定施設の更新

2021年度認定施設の更新は無し。

更新認定施設数：0施設

4) 2021年度教育研修施設の認定更新

2021年度教育研修施設認定更新は、

0173-0179、0319-0329

② コントロールサーベイ（外部精度管理）は、2年に1度の為、2021年度は実施なし。

③ 認定施設の質を維持、向上させるため、選出した3～4施設に細胞診専門医・細胞検査士のチームで立ち入り調査（内部精度管理）を2021年7月～9月に実施予定。

6. その他前条の目的を達成するために必要な事業

① IACの資格更新や連携（合同シンポジウムの開催など）。

② がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針（初版）の発行。

③ 細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ。

④ 新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ。

⑤ 地域連携の活動。

⑥ 国際交流事業（日韓、日中、日タイ、日米との共催事業、豪州との人事交流、カンボジアへの支援を実施）。

⑦ 米国JHU-ASC-JSCC合同ワークショップ2021の企画、運営

2021年秋頃開催予定




3. 2021年名誉会員功労会員候補者一覧：承認

4. 2021年度IAC試験の2022年春への延期：承認；IAC試験FIAC, CTIACは、新型コロナウイルスのパンデミックの事情により、2021年には行わず、2022年Spring（前半）に行うこととなり、IACへ通知した。具体的な時期については、今後検討して行く。

以上で本理事会の議題が終了し、川本雅司 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

年 月 日

この議事録が正確であることを証します。

| | | |
|-----|-------|---|
| 理事長 | 佐藤 之俊 |  |
| 監事 | 長村 義之 |  |
| 監事 | 佐々木 寛 |  |
| 監事 | 土屋 眞 |  |